

下妻市の医療サービスの取り組み—子宮頸がん検診を例に一

本論文は地方自治体が行う医療サービス特に健康診査に着目し、自治体が住民たちの健康を維持するために行っている事業をみる。地域とのつながり、自治体と市民のつながりから地方自治体の健康診査はどのような役割を果たしているのか。さらに、実際に自治体が発行している健康診査に参加したときの報告を目的とする。

下妻市は茨城県南西部に位置している。人口は 43,280 人、世帯数は 15,356 世帯である(2015 年 11 月 1 日現在)。65 歳以上が人口に占める割合は 24%であり、市は超高齢社会である。市で行われる健康診査は保健センターで行われる。保健センターの業務は大きく 2 つに分けられる。1 つは健康増進、他方、保健指導である。本論で着目する健康診査は、健康増進系の業務に属している。健康増進系の業務内容は①健康診査、がん検診に関すること②献血事業に関すること③応急診療(夜間応急診療所、休日在宅当番医)に関することに分けられている(下妻市保健センターHP より)。下妻市の保健センターでは毎年健康診査が行われている。以下、下妻市で行われている検診項目である。①特定健康診査②基本健康診査(39 歳以下、後期)③セット検診④肺がん検診⑤胃がん検診⑥大腸がん検診⑦前立腺がん検診⑧肝炎ウイルス検診⑨乳がん検診⑩子宮頸がん検診⑪骨粗鬆検診⑫口腔がん検診、計 12 種項目である。市で行われている多くの検診項目には年齢基準が設けられており、30 歳以上または 40 歳以上となっている。がんは 40 代~80 代までのすべての世代で死亡原因の 1 位であり、30 代で 2 位、20 代でも 3 位である(厚生労働省 HP より)。そのため、下妻市で行われている検診の対象年齢は 30 歳以上または 40 歳以上となっていると思われる。今回子宮頸がん検診を例に取り上げる理由としては、年齢制限が比較的緩いからである。21 歳女子(報告者)が受診できる検診は乳がん検診、子宮がん検診および口腔がん検診の 3 種類のみである。

市は対象となる住民に対し、健康診査受診券を送付している。送付者は市長の名前で送付される。今回受診する乳がん検診の受診券には、受付時間、自己負担金、持ち物、検診日程が記されている。会場での流れは、受付、問診、会計、講話、着替え、検診だった。

当日、12 時半からの受付にも関わらず受付前に 20 人以上が待っていた。受付(45 分間)が終わるころには 150 人ほどが来ていた。来ている年齢層は 50 代、60 代が多く次に 40 代が続いていた。20 代前半で検診を受けている人は見受けられなかった。会場には 6 人の市役所の人と茨城県総合健診協会の方が共同で検診を案内していた。受付時間の前半に来ていた人は受付の終了時間までできる限り問診、会計を受けていた。受付終了から検診開始まで 20 分ほど時間が空いたが、その時間では市役所が設けた健康に関する講話が行われた。講話の内容は高血圧に関するものだった。高血圧に関するものが選ばれたのは、下妻市は全国と比べると高血圧の人口割合が高いためであった。ほかの検診の際にも、テーマを変えてこのような講話を実施しているとのことであった。講話を終えると人数ごとに区切られ、検診を受けた。自分の番号が呼ばれるまでは、待合室で番号順に着席してよばれるのを待っていた。受付から検診終了までの時間は 1 時間 30 分程度であった。費用に関してだが、一般に 500 円で実施されたが、初めての検診受験者には市の援助によって無

料で受けることができた。

今回子宮頸がん検診に参加し、自治体が行う健康診査が持つ役割について以下のことが考察できる。

① 自治体が市民の健康状態を把握できる。

前述のなかで、下妻市は超高齢社会と記した。老人人口数は年々上昇しており、また単身高齢者世帯数も増加している。平成2年から平成22年の20年間で世帯数は3.2倍にまで増加している。高齢者の割合が増えることによって、市ではより一層高齢者への対応を重要視しなければならない。市が健康状態を把握することは、市における医療サービスの過不足を考えるうえで不可欠な情報となるだろう。今回のような健康診査は市民がそれぞれ自分の健康状態を把握するだけでなく、市が把握することにこそ意味があるのではないかと考える。

② 健康診査を通して市民の交流が生まれる。

健康診査に参加しているのは高齢者の方々が多かった。さらに、地区ごとに検診日程が組まれているため、近所に住んでいる人と連れ合いながら来ている人も多くみられた。待合室は仕切りなどが無いので連れ合いで来ていなくても、会場で近所の方と会い、会話が弾んでいる人もみられた。単身高齢世帯が増えている中で、健康診査を通じて近所の人と交流する機会ができていたと思う。市が実施しているイベントや地域における組合だけの会合のみでなく、健康診査という形でも市民の交流が図られているということがわかった。

以上2点が実際に子宮がん検診を受診し考察できた点である。健康診査は自治体からの一方向的なサービスではなく、そのサービスを受けることで市民同士の交流ができるという複層的方向をもつものであった。また市からの医療における援助についても考察してみると、今回の検診では報告者は無料で受診することができた。無料で受診することが出来なければ、わざわざ検診に行かなかっただろうと思う。自分の医療費について国民保険などを利用して3割負担することなどは知られているが、自治体がこのように健康診査の無償化などを行っていることは知らなかった。この無償化の目的は一人でも多くの健康診査を受ける人を増やし、市のデータベースを厚くしていくことだと考えられる。

下妻市のような中小市であっても自治体の仕事は多岐にわたる。今回は医療サービス、特に健康診査に関することを取り扱った。健康診査が1年を通じて行われている事業である。乳幼児から教育機関、また民間企業、など対象ごとに行われる検査項目は変わる。それぞれの対象によってつくられるコミュニティ空間があり、その空間は多くの自治体イベントの中でも特質なものだと思われる。